



マルアジ (日本海西・東シナ海系群) ①

マルアジは我が国本州沿岸および東シナ海に広く生息し、本系群は日本海西部から東シナ海に分布する群である。



図1 分布域

日本海西部から東シナ海に広く分布する。季節的な南北移動をすると考えられている。

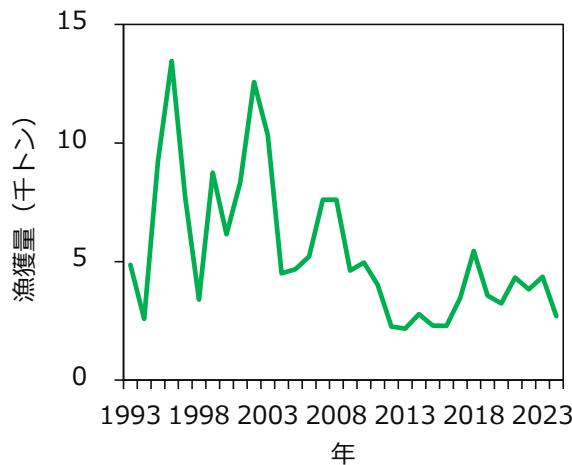


図2 漁獲量の推移

資源水準が得られている1993年以降の漁獲量は2002年に1.3万トンであった後は急激に減少した。2024年の漁獲量は2,703トンであった。

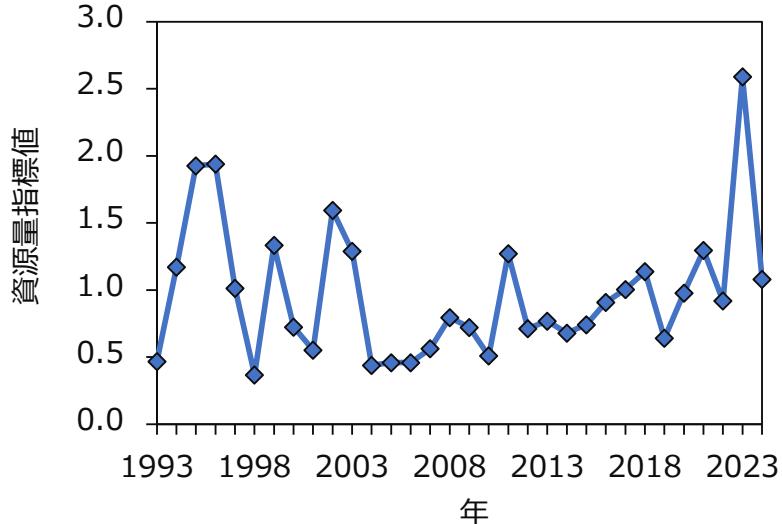


図3 資源量指標値の推移

おもに東シナ海で操業する大中型まき網と長崎県沿岸で操業する中・小型まき網の標準化CPUEの相乗平均値を資源量指標値とした。2003年までは変動が大きく、2004年に大きく減少したのち横ばいで推移し、2023年に大きく増加した。2024年に減少したものの、全体として増加傾向となつた。2024年の資源量指標値は1.08であった。

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。

マルアジ（日本海西・東シナ海系群）②

本系群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって、「令和7（2025）年度 漁獲管理規則およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。

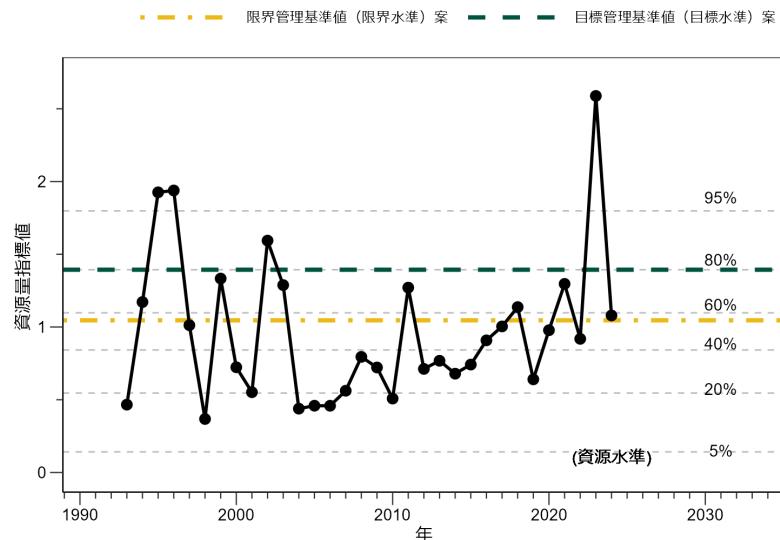


図4 資源水準および管理基準値案

大中型まき網と中・小型まき網の標準化CPUEの相乗平均値を資源量指標値（黒線）とし、資源水準に基づいて80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）として提案する。

2024年の資源量指標値（1.08）は58.6%水準に相当するため、目標管理基準値案を下回り、限界管理基準値案を上回る。

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。

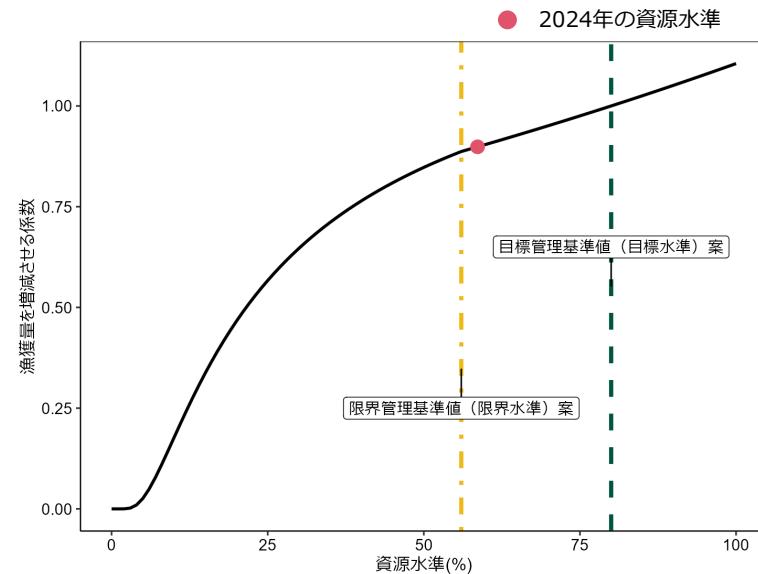


図5 漁獲管理規則案

資源水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲管理規則を提案する。資源水準が目標管理基準値案（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2024年）の資源水準（58.6%）における漁獲量を増減させる係数（赤丸）は0.90である。

マルアジ（日本海西・東シナ海系群）③

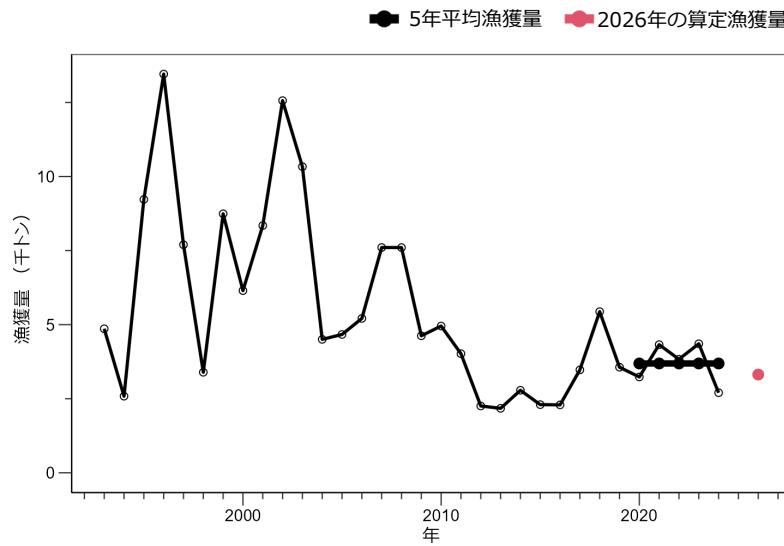


図6 漁獲量の推移と2026年の算定漁獲量

直近5年間（2020～2024年）の平均漁獲量（黒丸、3,690トン）に2024年の資源水準から求めた漁獲量を増減させる係数（0.90）を乗じて算出される2026年の算定漁獲量は、3,316トン（赤丸）となる。

	資源水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値
目標管理基準値 (目標水準) 案	80.0%	1.00	1.39
限界管理基準値 (限界水準) 案	56.0%	0.89	1.05
現状の値 (2024年)	58.6%	0.90	1.08
資源量指標値の推移から求めた資源水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。			
2024年の資源水準は58.6%であることから、2026年の算定漁獲量は3,316トンと算出される。			

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。